



東アジア共同体評議会会報

The Council on East Asian Community Bulletin

Spring 2010 Vol.7 No.2

タイで「東アジアの地域構造」を議論

「東アジア・シンクタンク・ネットワーク (NEAT)」は、8月に予定される年次総会に向けて、現在「食料安全保障」、「金融協力」、「投資協力」、「文化交流」、「水の安全保障」、「東アジア地域構造」の6つの作業部会 (WG) に分かれ、提言作成作業を進めているが、さる3月4日タイのバンコクで開催された「東アジア地域構造」WGには、日本を代表して当評議会の矢野卓也事務局長が出席したところ、WGの議論の概要は、つぎのとおりであった。

NEAT 作業部会での議論

このWGは、タイ外務省の支援のもとで、NEAT国別代表である「タイ東アジア学術協力評議会 (EACC)」が主催したものであるが、会議の冒頭に、ヴィタヴァス・スリヴィホック・タイ外務省ASEAN局長から「ASEANは

『ASEAN共同体』成立に向けて着実に準備を進めている。将来東アジアにいかなる地域構造が成立しようとも、『ASEANの中心性』が重要となる」との基調報告がなされた。

東アジア共同体を目指すプロセスにおける「ASEANの中心性」が主張されたが、出席した他のASEAN諸国代表だけでなく、中国、韓国代表からも発言がなかったため、日本 (矢野) から「東アジアの地域統合はASEANが



報告する矢野卓也事務局長 (左奥)

主導してきたという意味で『ASEANの中心性』の主張は理解できるが、その主張は、東アジア統合に関わる『開放性』『重層性』『透明性』などの普遍的な諸原則とどのように関わるのか。ASEANとして、東アジアの地域統合プロセスの方向性あるいはヴィジョンを示す責任があるのではないかと発言した。

公開国際会議での議論

翌5日には、タイ外務省とEACCの共催で公開国際会議「変化する国際情勢とその地域構造に対する意味連関」が開催され、「ASEAN+3」諸国の他、米、豪、印、露等諸国を代表する論客も加わり、「ASEAN+X」の「地域構造」のもつ可能性が強調された。なお、この公開国際会議には、日本から矢野のほか、寺田貴当評議会有識者議員 (早稲田大学教授) も参加した。

東アジア共同体構想をめぐる最近の動き

日中韓首脳会議の意義

昨年10月には、北京で第2回日中韓首脳会議 (10日) が、タイのチャム・ホアヒンで第12回ASEAN+3首脳会議 (24日) と第4回東アジア首脳会議 (25日) が開催された。鳩山首相にとっては東アジア首脳外交デビューの機会となり、その掲げる「東アジア共同体」構想を訴える絶好の機会となったが、その成果はどうだったのか。

1月19日に開催された当評議会の第37回政策本会議に講師として招かれた



報告する小原雅博外務省審議官 (中央)

外務省の小原雅博アジア大洋州局審議官は、「日中韓首脳会議終了後に発表された共同声明は、東アジア共同体構想について『開放性、透明性、包含性の原則に基づき、長期的目標として東アジア共同体の発展及び地域協力に引き続きコミットする』と明言したが、これはわが国の主張を盛り込んだものであり、長期的目標と原則が合意された意義は大きい」と述べた。

金融分野における協力

当評議会は「東アジア共同体構想をめぐる動きの現状をどう評価するか」との総合テーマの下で、2008年3月より全11回の政策本会議を実施しているが、この政策本会議はその第10回目。「金融分野における地域協力の進展と今後の課題」と題し、2月19日に、当評議会有識者議員の河合正弘アジア開

発銀行研究所所長を講師に迎え、報告を受けた。

河合議員は「2008年秋から深刻化した世界的な金融・経済危機で、改めて東アジアの通貨・金融協調の有効性が問われている。今後、東アジア通貨建ての長期債券市場を発展させて、域内の膨大な貯蓄を域内に長期投資されるようにする必要がある。域内為替レート安定化のためには、為替レート・サーベイランスを行うにあたって、アジア通貨単位 (ACU) 指標が有用な役割を果たしうる」などと述べた。



報告する河合正弘有識者議員 (中央)

百家争鳴から

当評議会のホームページ (<http://www.ceac.jp>) 上の政策掲示板「百家争鳴」への最近3ヶ月間の投稿論文を代表して、下記論文を紹介する。

東アジアでも「政策共同体」が台頭

筑波大学大学院名誉教授 進藤 栄一

鳩山首相の国連演説以来、「東アジア共同体」論がメディアで頻りに語られ始めたが、舞台の陰には6年有余のトラック2 (半官半民) 外交の歴史がある。その歴史が、いま東アジアに「知の共同体」を形成しつつある。アジア通貨危機後「ASEAN+3 (日中韓)」首脳たちが2003年秋に発足させたのが、NEAT (東アジア・シンクタンク・ネットワーク) である。NEATは、「ASEAN+3」の13カ国すべてに国別代表をおいた、トラック2の知的ネットワークである。

5つの作業部会が、夫々年2回の政策会議を開き、8月の年次総会を経て、とりまとめた共通政策をその

年の「ASEANプラス3」首脳会議に提言している。日本の国別代表は東アジア共同体評議会 (CEAC) だ。まさに侃々諤々の「政策知」の饗宴が東アジア各地で展開され、「知の共同体」を形成している。そのNEATの政策現場から見ると、東アジアにおける「共同体」構築過程はいま第2段階に入ったように思われる。「アセアン+3協力基金」、コメ備蓄制度、経済・金融監視機関、アジア債券市場、アジア産業大動脈、「エコ・シティ」建設、「アジア文化首都」遷都・・・などのホットな提言が、つぎつぎと繰り出されている。

(2010年2月16日付投稿)

最近3ヶ月間で注目されたその他の論文

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------------|
| 2/24 「中国に愛を捧げる日本」(岡崎研究所) | 1/14 「メドページェフ大統領のロシア批判の意味」(袴田茂樹) |
| 2/12 「政治家の言動に求められる教養」(易原俊雄) | 1/9 「対GDP比180%の国家債務をどうするのか?」(入山映) |
| 2/5 「偏狭な民族主義から距離を置こう」(浦木起治) | 12/12 「中国マクロ経済政策の方向性2010～2016年」(関山健) |
| 1/27 「20年前に逆戻りした沖縄の基地問題」(花岡信昭) | 12/4 「反米社会主義路線は国民の選択ではない」(杉浦正章) |
| 1/21 「いわゆる日中米『三角形』論について」(吉田重信) | 12/3 「試練の時期を迎えた『東アジア共同体』論議」(石垣泰司) |

CEAC活動日誌(12月-3月)

- ◇12月10日、2月10日 『メルマガ東アジア共同体評議会』発行
- ◇1月10日 CEAC E-Letter発行
- ◇1月19日 第37回政策本会議 (小原雅博外務省アジア大洋州局審議官他22名)
- ◇1月19-21日 第6回「アジア経済フォーラム」(プノンペン) (伊藤憲一議長、半田晴久顧問、渡辺蘭日本国際フォーラム主任研究員)
- ◇2月19日 第38回政策本会議 (河合正弘有識者議員他20名)
- ◇3月4日 NEAT「東アジア地域構造」WG (バンコク) (矢野卓也事務局局長)
- ◇3月5日 国際会議「変化する国際情勢とその地域構造に対する意味連関」(バンコク) (矢野事務局局長他)

■新規入会議員の紹介 (12-2月)

【経済人議員】

笹節子 (たちばな出版代表取締役)

【有識者議員】

青山瑠妙 (早稲田大学教授)、石川幸一 (亜細亜大学教授)、井上寿一 (学習院大学教授)、白井陽一郎 (新潟国際情報大学教授)、馬田啓一 (杏林大学教授)、小林博 (島根県立大学教授)、斎藤直樹 (山梨県立大学教授)、佐藤義明 (成蹊大学准教授)、助川成也 (日本貿易振興機構アジア大洋州課課長代理)、高橋克秀 (国学院大学教授)、永野慎一郎 (大東文化大学教授)、藤井秀昭 (京都産業大学准教授)

■新規就任参与の紹介 (12-2月)

玉木林太郎 (財務省財務官)

伊藤議長、半田顧問等「アジア経済フォーラム」に出席

さる1月19～21日、プノンペンで、第6回「アジア経済フォーラム」が開催された。当評議会は、第1回から毎回参加しているが、今回は伊藤憲一議長、半田晴久顧問などが出席した。

この「フォーラム」は、カンボジア大学が主催し、同国政府が全面支援する国際会議であり、冒頭のフン・セン首相

の1時間を超える大演説につづき、伊藤議長、半田顧問ともに基調講演を行った。

伊藤議長は「1997年、2008年と2回にわたって起こった金融危機は、この地域の結束の重要性を我々に知らせてくれた。2010年は、東アジア共同体構築にとって飛躍の年となるであろう」と講演した。



共同議長席に座る伊藤議長 (左端)



東アジア共同体評議会会報
2010年春季号
(第7巻 第2号 通巻第23号)

発行日 2010年4月1日
発行人 伊藤 憲 一
編集人 菊池 誉 名

発行所 東 ア ジ ア 共 同 体 評 議 会
〒107-0052 東京都港区赤坂 2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2193 [E-mail] ceac@ceac.jp(代表)
[Fax] 03-3505-4406 [URL] <http://www.ceac.jp/>